

# 桑折町の誇りを未来へ

私たちの桑折町には、ここで暮らすみんなが大切にしている宝物があります。守り抜くべきもの、そして新しく切り拓いていくものを見据えながら、町で暮らす様々な立場の方の明日への夢を語っていただきました。



桑折町商工会 会長  
本間 健雄 (ほんま たけお)

商工業の立場から、人々の新しい発想と行動力に未来の可能性を見いだそうと考えている。

JA 伊達みらい 代表理事組合長  
安彦 慶一 (あひこ けいいち)

農業の立場から、桃源郷の景観やおいしい桃の生産を守り続ける未来をめざしている。

桑折町教育委員  
安齋 恵子 (あんざい しげこ)

母親の視点で、親子がまちで働き、暮らしていける環境づくりを願っている。

NPO法人 ささえ愛「ふらっと」理事長  
室井 弥生 (むろい やよい)

福祉の立場から、まちの人々が共に支え合う暮らしづくりを模索している。

「桃」の最盛期を迎えます。春、阿武隈川の堤防から半田山を眺める、その素晴らしい景色は誇りです。桃の花が一斉に咲いて、すっきりとした半田山が見える。これが桑折町の最高の宝だと思います。町長 花はもちろんのこと、高品質なおいしい桃をつくり続けてきた生産農家の皆さんの努力と卓越した技術が、平成6年から21年間連続して天皇家・宮家に桃を献上できた、と

たい」と、祭りを通じて地域おこしをする、という思いで各若連が目前で行うようになり、現在の形になりました。始める前には「ここまでになるとは思っていませんでしたが、いまでは桑折町の夏の最も大きな風物詩の一つになりましたね。



町長 「桑折町の良さ」というのは、外から来た人の方が良く見えるのかもしれないですね。そこです。嫁いできた女性の方からお話を伺いたいんです。室井 桑折町でいちばんいいなと思うのは、やはり文化です。先人が培ってきた歴史を、現代まで受け継いで、私たちが文化として受け取っていると感じます。そこに、右往左往しない重みや底力を感じるんです。嫁いできて、一番初めにびっくりしたのが、諏訪神社のお祭りが大変にぎやかなことでした。あれほど子どもからお年寄りまで一緒に楽しむ、という機

## まちの誇りは人々の手に よる「継続」がその源泉

本間 私も地元若連で長年携わってききましたが、お祭りつて、自然と若者が集まってくるんです。周りの人もそうだし、町の雰囲気がお祭りの時は一になる、そういう自然発生的な部分結構多い。若者はみな、各若連の方に自主的に入ってきます。それはやっぱり伝統という気がします。小さい時からそういうものだと思っていますから。

町長 諏訪神社の例大祭は、私が若い時には、一部の地域しか出陣を出していませんでした。そこで他地域からも見るだけでなく参加したい」「若い人たちの手で盛り上げていき



いう大きな誇りにつながっていると思います。安彦 桑折町では、おいしい甘い桃を消費者に届けるために、全国的にもいち早く糖度測定付きの光センサーを導入しました。安全・安心を原点に、おいしい高品質な桃づくりで商品の差別化をしていこうという流れで生産してきました。本間 献上桃は、全国的にもブランド力がすごいんです。「献上」というのは、そんなに数はないそうなので。これを活かして例えば「献上桃大福」など、年中コンスタントに売れるお菓子などの6次化商品をつくれればいいな、と考えているところです。安彦 つくることを止めない、継続する、というのは桑折町としての大きな力があつたからこそ、と思います。震災の年も休まず献上できたんですから、継続は力ですね。



高橋宣博町長





### 支え合い、夢に向かつて生活 していける暮らしに感謝

町長 桃の生産と同じように、途絶えさせてはいけない部分として、福祉・教育の問題があると思います。この点はいかがでしょうか。  
室井 私たちは、配食サービスの事業を10年続けてきました。その中で、震災があったことで状況はやはり変わりましたね。高齢になってもこの町で住み続けたい、という思いが事業の原点だったのですが、3月でかなり配食の数は減りました。その後また多くなり、一度避難した方が戻つていくという状況が読み取れます。これからは地域の一人ひとりが、ある時は配食を支えて、ある時は逆に支えてもらうような、そんな形での町民としての生活ができたらいいのではないのでしょうか。  
安齋 震災当時は小学校の体育館に避難しまして、子どもたちに温か



### 住んでよかった、そんな 未来のまちづくりを

言葉をかけていただいた事が本当に身にしみて、前に進もうという気持ちもつなげたのだと思います。除染も丁寧にしていただき、今では子どもたちも外で遊んで、「今日は何があった」ということを親に話してくれて、将来の夢なども自分からするようになったという生活は、未来の夢に向かつて前向きな生活しているんだな、と本当に親として実感し、感謝しております。

町長 あの巨大地震を経験して、これからはそれを克服し、新しい時代



を切り拓かなければならないと思います。皆さんの未来に向けた思いをお聞かせ下さい。

本間 震災を機に閉店した店が何軒かあります。この対策はやはり、各商店の自助努力に尽きるのかなという気がします。何かアクションを起こすしかない、という気持ちを含んで持っているたく、そんな環境づくりが今の課題だと思います。

町長 先だつて開催された「ふくしまパーガースミット2014in桑折」、これは商工会青年部の諸君が長期間準備をして取り組んできたものですが、どうですか？

本間 最初は「パーガー」で人を呼べるのかな、という思いが頭をよぎりましたが、若い発想で、ふたを開けてみたらあのような人出があった……正直言っておもしろかったです。小さな町でも知恵をすれば、これだけの事が出来るんですね。やはり今の人の時代ニーズを捉えた発想も必要だと思えました。

安齋 いま、農業従事者は高齢化で担い手がいない、という問題に直面しています。10年後、15年後に桑折町の桃、素晴らしい桃源郷をどうするの、か、というのは「オール桑折」でいけば、ある程度継続できると思うています。たとえば勤労者の方が定年を迎えたら、桃を手伝いましょうか、といった形をつくる、子どもには食の教育の中で桃について教えるなどの取り組みをすれば、続いていくと私は思っています。他地域からの参入も必要かもしれませんが、まず



は桑折の地元から。これが大事かなと思います。特に子どもたちには自然、そして農業にふれてもらいたいんです。

室井 私たちの活動に、願わくは男性の方やお子さんにも関わっていただきたいですね。自分で実際に活動して体験したことは忘れないし、次につながると思っています。お父さんお母さんがそういう活動をしているのを見て、自分たちも……といった思いにもつながるのかな、とも思います。それと「オール桑折」で取り組むために、各団体がそれぞれの分野で活躍されているその力を、どこかで大きく集めて活用できれば、もっと大きな力で桑折町を動かすことができるんじゃないかと思えます。

安齋 桑折町ですつと暮らしていく



ためには、例えば町のブランドとして桃の加工品などの工場を立ち上げて、雇用を創出したり、また若い人たちに桃生産に携わってもらって、ここで子育てしていただく、といった考えもあってよいのかな、と思います。

「親子でこの町で生活していける」という環境を確保していくのは大事かなと思います。

本間 やはり人口が増えるのが一番の望みです。そして子どもからお年寄りまで安心して住める町であってほしいと思います。

安齋 いまの農村の原風景を残したい。歴史もあるし、そういった桑折町独自の良さを残し、町民のための町であれば、何も言うことはありません。

室井 町民がここに住んでいて楽し



夢人対談  
今を見つめる。明日をひらく。

いま、それがいちばんの原動力だと思います。誰かを支えるときもあれば、誰かに支えられて暮らすこともある、という思いで生活できる町であってほしいです。  
安齋 思いやりの心がいちばん大事だと思います。そういう気持ちがないと、震災など大きな事が起こった時に、自然と助けようという思いにならないんじゃないでしょうか。そういう気持ちを育んでいきたいです。  
町長 桑折人として、優しさや思いやりをもつて、原風景や歴史的景観を守りながら、しっかりと子どもたちのためにふるさとを伝えていくのが我々の使命です。本当に桑折町に住んでよかった、と思えるようなふるさとを実現するために、ともに頑張っていきたいと思います。